

キミ子方式を用いた子どもの絵画活動の指導法 — A認定こども園5歳児「お父さんの絵を描こう」の活動記録から —

岡本直行¹⁾*・八子美代子²⁾・蓮沼 唯²⁾

1) 新見公立大学健康保育学科 2) 認定こども園泉幼稚園

(2022年9月21日受付、11月16日受理)

本稿は、認定こども園A幼稚園の絵画活動「お父さんの絵を描こう」の指導案や活動記録の内容を調査し、キミ子方式を用いた絵画活動の指導法が子どもに与える影響や育ちについて考察したものである。A幼稚園の活動には、子どものペースを重視した体制作りや子どもの意思に任せ個々に時間を調整する指導、会話を通して子どもの困難に寄り添う指導、子どもとともに描画し作品を完成させる指導等、指導の工夫が見られた。

キミ子方式等の描画法を子どもの表現活動に生かすことは、画一的な作品や個性のない作品を生む可能性があるものの、子どもの実態に沿うことに重点を置いた計画的な指導案や体制づくりの工夫によって、作品に自由を与えること、子どもの感動や発見、満足感等を与える活動となることが分かった。このように、キミ子方式のよさを子どもの実情に合わせアレンジされた指導法によって、子どもの心に寄り添い満足感を与える絵画活動の実践が可能となる。

(キーワード) 描画指導法、キミ子方式、子どもの絵画活動、保育現場

1. 研究の目的と方法

1) 目的と方法

本稿の目的は、キミ子方式を用いた子どもの絵画活動の指導法について、保育現場での実践を通して考察することである。

キミ子方式とは、松本キミ子が1970年代に考案した描画指導法である。小中学校の代替教員時代に、絵の描けない子どもと接したこと、自分が行った授業がうまくいかなかったこと等から、試行錯誤を繰り返して考案された。その後、小・中・高等学校の教師による講習会でキミ子方式が紹介され、全国的に広まった。

キミ子方式の特徴としては、「道具、題材、描き方が決まっていること」「使用する絵の具を赤・黄・青の三原色と白の4色に限定し混色して自分の色を作ること」「植物・動物・人工物をモデルとし、その成長や製造の順に従って観察しながら描き進めること」「構図は描かれた絵の大きさに合わせて画用紙を継ぎ足す、余白の部分を切り取る等によって決めること」が挙げられる¹⁾。

これまで、描画法や子どもの描画活動に結びつく実践的な書籍は多く出版されてきたが、保育現場におけるキミ子方式の実践を基にした内容や指導法については、造形教育の研究対象としてはほとんど見られない。

そこで、本研究では、キミ子方式の出版物、キミ子方式に関する文献、キミ子方式を用いた絵画活動を実践する、

認定こども園A幼稚園(以降、A幼稚園)の「お父さんの絵を描こう」の指導案、活動記録を用いる。それらの記述を確認し、A幼稚園の絵画活動の内容や方法と子どもの育ちについて考える。

2) 倫理的配慮

今回取り上げるA幼稚園の指導案、活動記録等については、本研究に使用することを園長、幼稚園教諭の先生方に事前に説明資料を用いて説明し、ご理解、ご同意をいただいた上でご提供いただいたものである。また、園名、活動の画像、子どもの作品の画像の使用に関しても許可をいただいている。

2. 絵画活動「お父さん(おじいちゃん)の絵を描こう」のねらい

A幼稚園で実践されている、キミ子方式を活用した絵画活動の事例として、「お父さん(おじいちゃん)の絵を描こう」の活動を取り上げる。

活動のねらいは、指導案(表1)にあるように、①実物大のお父さんの特徴をとらえて伸び伸びと絵を描くことを楽しむこと、②今まで気が付かなかった実際の目、鼻、口、眉毛を知ること、③様々な絵の描き方があることを知り、挑戦すること、④想像ではなく、実物を見て見えたように描いてみる、の4点である。準備物はキミ子方式の準備物として定着している、「画版、画用紙(白)、絵の具・まん

*連絡先: 岡本直行 新見公立大学健康科学部健康保育学科 718-8585 新見市西方1263-2

てんカラー（写真1）、水彩バケツ、雑巾、セロハンテープ」²⁾に加え、キミ子方式の準備物には挙げられていない「オイルクレヨン黒1本」である。

活動で使用する絵の具は、子どもの絵本等を取り扱う株式会社フレーベル館が、4歳から6歳の幼児向けに開発した「まんてんカラー（固形水彩絵の具）」である。固形水彩絵の具とは、固形の状態の水彩絵の具で水に溶ける性質を持ち、絵の具に加える水の量で色の濃淡やにじみやぼかしといった表現が可能である。また、絵の具が収納されたケースとパレットが一体型になっているものも多く、持ち運びや塗り始める準備が簡単であるため、水彩絵の具を初めて使用する子どもにとって扱いやすい絵の具といえる。

まんてんカラーは絵の具のケース自体がパレットの役割を果たす構造であり、円形の固形絵の具が上下2段に6色ずつ配置された、見た目の美しい絵の具である。まんてんカラーを使用した絵画活動は全国の幼稚園のホームページ³⁾等で確認することができるが、蓋を開けた時にみられる子どもの様子の共通点は、パレット内に規則正しく配置された美しい色に歓喜の声をあげ目を輝かす姿である。

A幼稚園の活動においても同様の姿が見られ、活動開始時の子どもの姿として、「まんてんカラー（絵の具）に興味を持ち自由に絵画活動を楽しむ姿が見られる」と指導案に記述されている。また、絵画指導を行う先生方の活動記録には「美しい色に魅せられて、つつい塗り塗ることにより込む子どもが多いように思われます。それはそれで、とてもよいと思います。」と記述されている。活動のねらいに子どもの色への興味に関する記述はないが、子どもらしい気づきや心を重視する優れた対応と考えられる。



写真1 まんてんカラー

3. 絵画活動の流れと指導の方法

1) 導入

絵画活動は、各部位がどのような形なのか、どのような特徴があるのかについて、園長が言葉がけを行いながら、実際に描いて見せることから始まる。この言葉がけにより、

子どもたちは今まで気が付かなかったことを発見する。実際の言葉がけ、描画の様子は以下のとおりである（表2）（写真2）。

表2 お父さんの描画の流れ（下描き）

1. 鼻・鼻の穴	園長「人間は、息をするね。一番大事な鼻の穴から描いてみましょう。息をしないと、死んでしまうよね。」 ※画用紙の中心に小さく描いてみせる。
2. 目・眉毛	園長「その上に目。上瞼と下瞼に挟まれて、目の玉があるね。まつ毛もあるよ。」
3. 口・歯	園長「今度は、鼻の下に口。上唇と下唇があって、その中に歯があるんだね。」
4. 耳	園長「まるで耳の中は迷路みたいだね。」
5. 髪の毛、顎	顔のパーツがかけたら、髪と耳と顎を繋ぐ。
6. 首	園長「次は重い頭を支える首。顔と同じくらいの大きさだよ。ほら！！」 ※園長の首を示す。 園長「細いとボキンと折れてしまうよ。」
7. 肩	園長「次は肩。これは大事です。顔よりずっとずっと大きいよ」 ※園長が自分の身体で示す。
8. 服	園長「お父さんはどんな服を着ているか思い出してみ。ズボンを履いているね。描いてあげて！」
9. 靴	園長「お父さんの靴、大きいよ。どんな靴にする？」 ※園長の履いている靴を脱いで見せるとともに、言葉がけにより考えさせる。

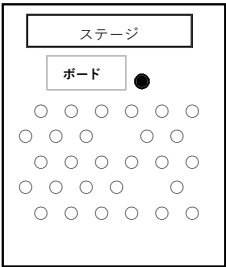
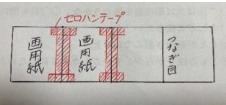



写真2 お父さんの絵を描こう（下描き）の指導の様子

表1 お父さんの絵を描こうの指導案

活動名 お父さん(おじいちゃん)の絵を描こう 5月24日 (火) 5歳児 36名

認定こども園 A幼稚園

<p>子どもの姿</p>	<p>○まんてんカラー(絵の具)に興味を持ち自由に絵画活動を楽しむ姿が見られる。</p>	<p>ねらい</p>	<p>○実物大のお父さんの特徴をとらえて伸び伸びと絵を描くことを楽しむ。 ○今まで気が付かなかった実際の目、鼻、口、眉毛を知る。 ○様々な絵の描き方があることを知り、挑戦する。 ○想像ではなく、実物を見て見えたように描いてみる。</p>
時間	環境構成	幼児の予想される活動	保育者の援助と配慮
<p>9:30</p> <p>9:45</p> <p>11:00</p>	<p>〈遊戯室〉 ・換気を行い、快適に過ごせるようにする。</p>  <p>保育士● 子ども○</p> <p>〈準備物〉 画版、画用紙(白)、クレパス黒1本のみ、まんてんカラー(絵の具)、水彩バケツ、雑巾、セロハン</p> <p>○セロハンテープで、画用紙を付け足す。</p>  <p>○まんてんカラーの使い方を写真で子どもたちの見える所に表示し、目で見て確認できるようにしておく。</p>	<p>○画板、クレパスを持って、遊戯室に集まる。 ・場所をみつけ座る。 ○園長先生の話を聞く。</p> <p>・顔のパーツ一つひとつを近くの友達と2人ずつでじーっと見合う。</p> <p>○お父さんの絵を描く。 ・クレパスで描きをする。</p>  <p>・画用紙を足してもらい、体を描く。</p> <p>○色塗りをする。 ・まんてんカラー、水彩バケツ、雑巾を準備する。 ・肌の色を塗る。</p> <p>○片づけをする。 ・パレット、水彩バケツを洗い、干す。 ・描いた絵を保育者の所へ、持ってくる。</p>	<p>○ソーシャルディスタンスが保てるよう、間を開けて座るよう声をかける。</p> <p>○子どもたちが活動に興味を持てるよう、「今日は見た通りに描いてみよう」「先生だったらこう描くよ。」と呼びかけ、前で絵を描いてみせる。</p> <p>○鼻、目、眉、耳、顎などを観察し、どんな形か呼びかけながら、描いてみせる。</p> <p>○描き始めは鼻からと設定し、近くのものから隣り、隣りと順に描いていくことを伝え、見守る。</p> <p>○手が止まってしまう子には、頑張り認め、無理強いせず、見守る。</p> <p>○画用紙からはみ出したら、保育者に呼びかけるよう伝え、必要に応じ、画用紙を付け足していく。(保育士の手を増やすことで、子どもを待たせず貼り付けられる。)</p> <p>○肌の色を友だちと比べ合い、違いに気づけるようにする。</p> <p>○少し、色を混ぜることで、色が変化することを伝え、表現の幅を広げる。</p> <p>○服、顔の色、髪の色、形、眼鏡、髭、全体の色彩や背景など、こだわりを褒め、考えさせる。</p> <p>○子ども一人ひとりの頑張り認め、いいなと思う点を積極的に言葉で伝える。</p>

園長の言葉がけや描画による導入、また、向き合った友達
の顔や体を観察しながら、子どもたちは各部位の特徴を
理解していく。その後、子どもたちは向き合った友達の鼻、
目、耳、顎等を観察した後、オイルクレヨンを用いて絵画
活動に入って行く。

2) 展開

①描画

描き始めは、保育者の指導により、鼻からと設定する。こ
れは、完成した時の絵の大きさが大きくなるように導くた
めに考えられた方法である。一般的に、人間の顔を描く時
等の描き始めは顔の輪郭となることが多い。例えば、「小
河原智子の似顔絵入門」⁴⁾等の人物画の入門書には、顔の
特徴の基本となるのが目の位置であること、目の位置を決
めるには、顔の輪郭が基準となること等が記されており、
顔の輪郭から目の順に描き進めるのが理論上の自然な流
れとしている。

しかし、最初に描いた顔の輪郭が小さな円であった場
合、その円以上の広がりを持つ顔を描くことは不可能であ
る。小さい顔を描く子どもに何とか大きな絵を描かせる方
法がないかと考えたA幼稚園の園長は、キミ子方式の出発
点を決め、隣へ隣へと描き進める理論⁵⁾から、鼻の穴を出
発点として外へ外へと描き広げる方法に気が付いたとい
う。以降、この方法にて指導を行ってきているが、子ども
全員が大きな絵を描くようになり、自信をもって完成を告
げると言う。

鼻の穴の次には、鼻、目、口と、近くのものに観察を通
して、時には触って確かめながら順に描いていく。その際、
保育者は側で見守り、手が止まり描けなくなる子どもに
は、これまでの頑張りを認め、無理強いをすることなく見
守るように心がけている。また、子どもの困難がどこにあ
るのか、子どもがどうしたいのか等を引き出すためのサポ
ートを行う。

実際に起こったやり取りを提示する(表3)。

表3 手が止まり描けなくなる子どもへの支援

子ども「先生かけない…」
保育士「難しいのかー。どこを描きたいのかな？」
子ども「お父さんの体が分からない。」
保育士「そうなんだね。でも首までは上手く描けたね！！ じゃあ首と繋がっているのはどこの部分だろう…。 先生の体はどうなってる？」
※保育士は首から肩をなぞってみせる。
子ども「肩かな？」
保育士「じゃあ次は肩を描いてみようか！」

子どもの描画が画用紙からはみ出した場合は、保育者に
呼びかけるよう伝え、子どもの描画の状況や必要に応じて
画用紙を付け足していく。子どもの絵画活動への意欲を途

絶えさせることがないように、また、すぐに画用紙を追加
して絵画活動に専念できるように、複数の保育者で見守る
体制を取っている。そのような指導や配慮の工夫を重ねな
がら、お父さんの大きな絵の下描きが出来上がる。

②彩色

下描きの次は彩色である。肌の色を友達と比較し合いな
がら、会話を通して違いに気が付くように促す。友達との
肌の色に違いがあること、自分の肌にも様々な色の差があ
ることに気が付いた子どもは、顔、髪、髭等の各部位に色の
違いがあること、その形にも違いがあることに気付きなが
ら彩色していく。また、身に着けている服や眼鏡、靴等、身
体全体の色彩や背景にまでこだわりを持ち彩色する子ど
もも現れる。

保育者は、そのような子どもの気づきや様子を褒めると
ともに、新たな発見や考えを導き出すように言葉がけに工
夫をしながら活動を見守る。最後に、満足した顔で完成し
た作品を提出する子どもに対し、子ども一人ひとりの頑張
りを認め褒めるとともに、作品の素晴らしい点が積極的に
言葉を通して伝えられる。

③まとめ(完成)

キミ子方式を活用したA幼稚園の絵画活動で完成した、
お父さん(おじいちゃん)の絵は写真3にある通りである。

4. 子どもの個性や進度に対応した絵画活動指導の留意点

子どもの絵画活動においてA幼稚園で留意している点
は、「①時間内に終わらせるのではなく、個別のペースで
活動できるよう時間を作ること、②日を変えて、何度も挑
戦できる環境を用意すること、③手が止まってしまう子ど
もには子どもの困難を聞き出しサポートすること、④物の
大きさや形に気が付くような言葉がけを重視すること、⑤
時には保育者も子どもとともに絵を描くこと」である。

まず、絵画活動の時間についてである(①)。絵画活動
のモデルを観察し、形や物理的な構造等を理解すること、
様々な色の存在や違いに気付くこと、描画を描き進めるこ
と等、絵画活動には様々な行程があり、その理解力や表現
力、興味・関心等は子どもによって様々である。集中力を



写真3-1 完成したお父さんおじいちゃんの絵



写真3-2 完成したお父さんおじいちゃんの絵

高め、1日で描画を完成させる子どもがいる反面、少しずつ描き進め、何日もかけて完成させる子どももいる。

そのような個々の子どもの考えや行動を尊重し、子ども自身で準備をして、絵画活動に取り組むことが可能な環境を整えるよう配慮しているそうである。自由遊びの時間などを利用し、子ども自身が絵画活動を再開したいと考えた時に、自身で準備して作品を仕上げていく方法や長時間の活動で疲れがでない、嫌気がささないように、仕上げを急がないように指導する方法、集中力を持って短時間絵画活動を行う、疲れたら活動を中止する、を繰り返して完成させる方法等、子どもの状態に合わせた指導に留意している。

次に、日を変えながら何度も挑戦できる環境についてである(②)。絵画活動において、同じモデルを使用した絵画を何枚描いてもよいこととし、子どもが気に入り納得した作品、自信を持った作品制作が可能な環境を整えている。子どもの気分が乗らない時、絵画活動をやりたくない、嫌と感じている時等の作品は、子どもにとってお気に入りの絵にならないというA幼稚園の考え方による指導方法である。無理に描かせようとすると描画を苦手とする子どもを生むことにつながるであろう。この指導は、これ以上描画を続けたくないといった子どもの心に寄り添うキミ子方式に通ずる指導方法⁵⁾であり、それまで集中して描いた子どもの作品を大切に扱う指導方法と考えられる。

手が止まってしまう子どもには、子どもの困難な部分を聞き出しサポートする方法を取っている。前述したように、子どもと保育者が言葉を交わしながら子どもの困難や気持ちを共有し、新たな発見や解決策に導くように対応している(③)。

また、描画の過程で描いている絵が小さくなってしまいう子どももいる(④)。大人は子どもに大きな絵を求める傾向が高い。それは、大きな子どもの絵は、元気があってよい、上手な絵等と評価されることが多く、画用紙全体に絵を描く子どもは、絵を描くことが好き、自信があると考えられているからである。

しかし、現実には絵を描くことに自信がない、描いた絵を見られたくないといった子どももいる。そのような絵の対処法として、絵が画用紙の中心に来るように、画用紙自体を切り整えることをキミ子方式では推奨している⁶⁾。この方法はA幼稚園でも日常的に実践されている方法であるが、一度は大きな絵を描き満足な笑顔を見せてほしいとの願いから、モデルの大きさに気が付くことのできる言葉がけを行うように心がけている。そこで、お父さんの絵の活動中に「みんなのお父さんってどのくらい大きいのかな。先生よりも背が高いかな。」等と声をかけてみたところ、物の大きさを比較しながら大きな絵を描く子どもが増加したそうである。大きさの比較可能な対象が身近にあることに気が付くと、子どもたちは大きさをイメージしやすくと考えられる。

最後の留意点は、時には保育者も子どもとともに絵を描くことである(⑤)。子どもは、自分が描きたいものを書く自由画には抵抗を感じないが、設定された題材を描く絵画活動においてはどこから手をつければよいかの判断がつかず、困ってしまうことがある。そのような状況が繰り返されると、「白い画用紙の恐怖」といわれる、描画に苦痛を感じる、描かされる、といった感情を抱く子どもがいることが分かっている。

そのような状況に対応するために、A幼稚園では、保育者も子どもの隣で、子どもと同じペースで描画を行う機会を作るようにしている。例えば、「次に先生は〇〇を描こうかな。T君も描いてみるかな。」「ここ、難しいね。どうなっているのかな。」「次はどこを描きたいのかな。」等、会話をしながら取り組むのである。その結果、子どもの方から徐々に「こうしたい」という感情が芽生えることができるという。

5. 考察

A幼稚園の絵画活動はキミ子方式を活用しているが、キミ子方式の「描き始めの基本」⁷⁾と異なる点が2点ある。

1点目は、オイルクレヨンを使用して下描きをすることである。キミ子方式の描画の基本では、描画は下描きをすることなく、絵の具を混色して自分の色を作り画用紙に直に描画することとしている⁸⁾。画用紙に塗られた色の隣の色や形を観察し、自分が感じた色を新たに作り隣へ隣へと描き進めることで、自然と全体を描き終えることができる。キミ子方式では、絵を描くことが苦手な人に苦手なことはやめること、下描きをしないことを説いている⁹⁾。白い画用紙を目の前にして何を書いていいかわからず手が止まってしまう、いわゆる「白い画用紙の恐怖」を抱く子どもにとっては、救いとなる観点といえる。

では、子どもの絵画活動において、下描きを描くことは避ける行程であろうか。A幼稚園でキミ子方式を活用した

絵画活動を行う子どもの年齢が、5歳児であることを忘れてはならない。子ども描画の発達段階において、5歳半ばの子どもの絵に現れる変化は、輪郭線で描くこと、場面を描くことの2点である。

5歳児までの絵は独立した形を付け足す描き方であるが、5歳児以降の絵は複数の形を連続した輪郭で一つにまとめた描き方となる。複数の部分を一つの輪郭にまとめて表現することは、絵の全体像に計画性を持ち表現できるようになるからである。幼児の絵は、何がどこにあるかを描く時期から、次第にどう見えるかを意識した描画に変化していく。これは子どもの絵の発達に関わる大きな流れということができ、その後は、輪郭線で描く描画方法が子どもの絵の主体となっていく。

また、5歳児までは、1枚の紙に複数のモチーフを描いたとしても、なんとなく関係のあるものを並べるといった絵であるが、5歳児になると、誰々が何々しているところ、という場面を描く試みが現れる。子どもによっては、さらに発展したストーリー性のある絵や絵本を作ることもある。また、男児と女児とで描く絵の内容に差が出る時期でもある。

以上の点から考えると、5歳児の子どもがオイルクレヨンで輪郭を描くことは、子どもに無理なく絵画活動を楽しませること、子どもの描画の発達段階に適した絵画活動の方法であること等、子どもの優れた絵画活動を展開するために、A幼稚園の子どもの特性とキミ子方式の指導法上手く融合させた、優れた取り組みと考えられる。

2点目は、A幼稚園の絵画活動で12色の固形絵の具を使用することである。キミ子方式では使用する絵の具をチューブからパレットに絞り出した、赤・黄・青・白の4色に限定しており¹⁰⁾、それらを混色することで新しい色が生まれること、色の美しさに気付くこと、色の分量の違いによって色のトーンに差が出ることを子どもが知ることができる。その経験と知識を活かし、子どもが自分の色を作り彩色することによって複雑な色合いを持った作品となる。

しかし、絵の具をチューブから必要量絞り出し筆を自在に操り混色することは、5歳児にとっては困難な作業である。固形絵の具は筆の水で絵の具を溶かして色を取り出す画材であり、筆で絵の具の表面をこする回数によって色が濃くなる、という仕組みである。一度に多くの絵の具が溶けることもなく、子どもでも簡単に色のトーンを生み出すことが可能となる。また、固形絵の具が固定された容器自体がパレットの役割を担い、片付け等が簡単なことから、幼児に適した画材といえる。また、固形絵の具を幼児の絵画活動に使用する計画は、子どもの発達段階を重視した方法であると考えられる。

指導においては、キミ子方式をうまく取り入れた方法が見られる。顔の部位の説明や子ども同士をむき合わせて観察し、その形や役割について知ること、友達と自分の各部

の形や大きさの違いに気付くこと、人によって肌の色が異なること等を実感できるように、指導を工夫している。実際の絵画活動では、子どもの発達段階を考慮し、オイルクレヨンを使用して下描きをすること、子どもが扱いやすい絵の具を使用して彩色すること等、配慮した指導を行い、下描き、彩色を個々のペースを尊重することによって、子どもが納得して完成可能な体制を確立させている。

このように、子どもの活動のペースを重視した体制を整え、子どもの意思に任せて完成までの活動回数や時間を調整できること、子どもの困難に寄り添い会話を通して悩みや不安を引き出しその対策方法を援助すること、子どもの気づきや気持ちを共有し、一緒になって作品を完成させること等、言葉がけや細かい配慮が計画的に配置されていた。子どもの意思を尊重して作品を仕上げる方法は、長時間の活動で疲れや嫌気がでない活動の体制を整えることにつながっている。

A幼稚園の絵画活動には、キミ子方式を用いながら、それ指導内容や指導法をそのまま流用するのではなく、A幼稚園で生活する子どもの実情に合わせた指導法にうまくアレンジしている。その柔軟な考え方や指導計画、方法は、子どもの感動や発見、挑戦しやり遂げたという満足感や達成感を与えると同時に、子どもが気に入って納得した作品作りが可能となる。A幼稚園の指導内容は、子どもの心に寄り添うキミ子方式のよさを活かした指導方法であり、それまで集中して子どもが描いた作品を大切に扱う指導方法と考えられる。

6. まとめ

本稿では、キミ子方式の出版物、キミ子方式に関する文献、キミ子方式を用いた絵画活動を実践するA幼稚園の「お父さんの絵を描こう」の指導案、活動記録、園長や保育者へのインタビューを用い、キミ子方式を用いた子どもの絵画活動の内容や方法、子どもの育ちについて考察した。

キミ子方式等の描画法を子どもの表現活動に生かすことは、画一的な作品や個性のない作品を生む可能性があるものの、子どもの実態に沿うことに重点を置いた計画的な指導案や環境づくり、援助の方法によって、作品に自由を与えることも可能であることが分かった。また、子どもの感動や発見、満足感等を与える活動となることも明らかになった。

今後は、A幼稚園の指導内容や方法をさらに詳細に分析し、子どもの実態に即した指導の内容や方法の在り方について考察することを継続したい。

謝辞

本稿のために子どもの造形表現の活動記録をご提供下さった、泉幼稚園の保育者の皆様に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

引用文献

- 1) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, 2008
- 2) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp6-7, 2008
- 3) 学校法人光暁学園 新潟中央幼稚園HP：<http://nckg.org/?p=5073> 2022.6.13.オンラインアクセス
- 3) 学校法人清瀬学園HP：<https://www.kiyoseyochien.ed.jp/blog/%EF%BC%95%E6%9C%88%EF%BC%91%EF%BC%93%E6%97%A5%EF%BC%88%E6%9C%A8%EF%BC%89%E2%98%86%E5%B9%B4%E9%95%B7%E3%80%80%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%9D%E3%83%B3%E2%98%86/> 2022.6.10.オンラインアクセス
- 3) MOMOCO-CREATION HP：<https://momo-cocreation.com/2020/05/13/1360/> 2022.6.15.オンラインアクセス
- 4) 小笠原智子：小笠原智子の似顔絵入門。主婦の友社, 2012
- 5) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp13, 2008
- 6) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp15, 2008
- 7) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp12-15, 2008
- 8) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp15, 2008
- 9) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp12, 2008
- 10) 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門。JTBパブリッシング, pp12, 2008

参考文献

1. 島田由紀子：幼児、児童のメソッドによる描画指導法の研究。和洋女子大学紀要, pp57, 87-96, 2017.
2. 松本昭彦：キミ子方式と大学生。愛知教育大学実践総合センター紀要, 8, pp.189-196, 2005
3. 松本昭彦・金由惻：キミ子方式の応用題材に関する研究—応用題材開発の可能性について—。愛知教育大学教育創造開発機構紀要vol.2, pp.29-36, 2012
4. 松本昭彦：キミ子方式と創造画。愛知教育大学教育実

践センター紀要, 13, pp.139-146, 2010

5. 高橋敏之：図画工作・美術科教育における展覧会及びコンクールの意味と絵画指導の問題点。美術教育学(24), pp.197-209, 2003
6. たのしい授業編集委員会：だれでも描けるキミ子方式・たのしみ方・教え方入門。仮説社, 1944
7. 松本キミ子：キミ子方式宇宙のものみんな描いちゃおう—植物・動物・人工物の描き方。太郎次郎社エディタス, 1987
8. 松本キミ子：三原色で描く四季の草花—松本キミ子のフィールドノート誰でも本物ソックリの絵が描ける画期的絵画入門の本。日貿出版社, 2010
9. 松本キミ子：キミ子方式スケッチ入門 逆転の発想で誰でも絵が描ける。JTBキャンブックス, 2001
10. 松本一郎：はじめてでも楽しみながら絵が描ける—キミ子方式によるアートセラピー。生活ジャーナル, 2002
11. キミ子方式公式HP/キミ子プラン・ドゥ：<http://www.kimiko-method.com/>, 2022.6.10. オンラインアクセス

